

CSR
重要課題

電力の安定供給
原子力の安全・安定運転

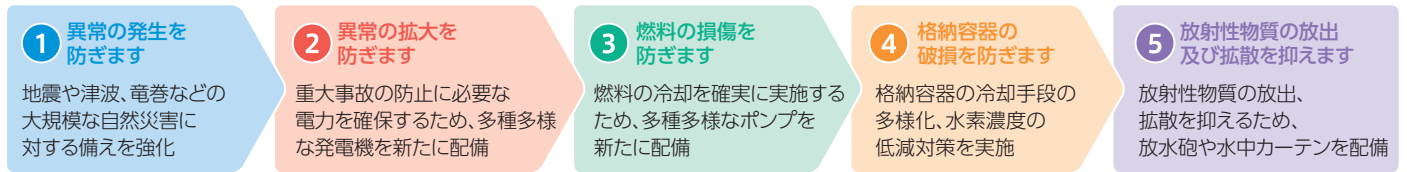


原子力の安全・安定運転に万全を期すとともに、 更なる安全性・信頼性向上の取組みを継続的に行っていきます

原子力の安全確保に万全を期すための対策を実施しています

九州電力㈱の原子力発電所は、世界で最も厳しい水準にある「新規規制基準」に適合し、安全対策の有効性が確認されています。
また、規制の枠組みに留まるだけでなく、今後も、最新の技術的知見やデータの収集に努めながら、継続的に原子力発電所の安全性・信頼性の向上に取り組んでいきます。

[重大事故を防ぐための5つの段階に応じた多様な安全対策の実施]



[玄海原子力発電所の安全対策(概要)]

※川内原子力発電所においても、同様の安全対策に取り組んでいます。



○玄海・川内原子力発電所では、テロなどへの対処機能を有する「特定重大事故等対処施設」(*)の設置を進めています

(*)原子炉補助建屋などへの故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムにより、原子炉を冷却する機能が喪失し炉心が著しく損傷した場合に備えて、原子炉格納容器の破損を防止するための機能を有する施設

[原子力防災体制の強化]

原子力発電所のあらゆる事象に速やかに対応できるよう、緊急時の体制の整備や様々な訓練を繰返し行い、対応能力の維持・向上にも努めています。

また、国・自治体の総合防災訓練への参加や、原子力事業者間での相互協力訓練への参加などを通じ、関係機関及び原子力事業者間の連携を図っています。



原子力防災訓練

CSR
重要課題

電力の安定供給
安全で強靱なまちづくり



災害に強いインフラを構築し、エネルギーを安定してお届けすることを通じて、皆さまの生活や企業活動を支え続けます

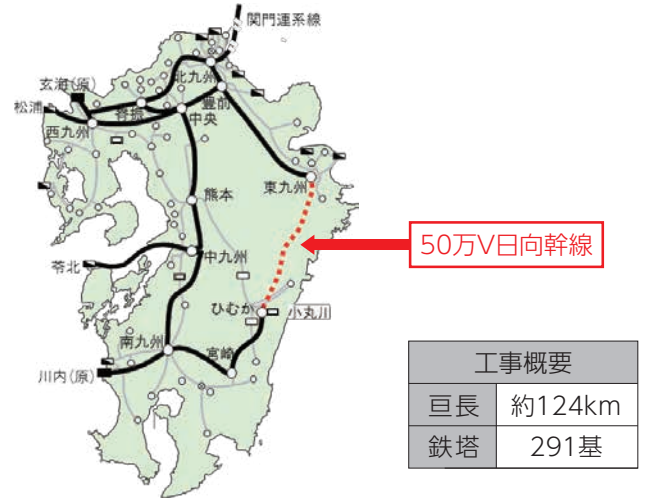
電力の安定供給に向けて長期的視点から設備を形成しています

九州電力送配電㈱では、いかなる時でも質の高い電気を安定して皆さまにお届けするため、長期的な視点から送配電設備の建設・補修などを行っています。

[50万V日向幹線の建設]

現在、九州北部と南部を結ぶ50万V送電線は1ルートであり、今後老朽設備の更新工事を実施予定です。

この工事期間中に自然災害などのトラブルが発生した場合でも、広範囲に停電させることがないよう、新たなルートである50万V日向幹線(大分県―宮崎県間)の建設を2022年の運用開始に向けて着実に進めています。



無電柱化の推進により、災害に強い街づくりに貢献します

近年の災害の激甚化を踏まえ、九州電力送配電㈱では、災害時に電柱が倒壊して、災害復旧活動の妨げとならないよう、主要道路(国が定めた緊急輸送道路1,000km)のうち九州内における整備目標107kmについて、「無電柱化」を進めています。



[無電柱化前]



[無電柱化後]

電柱を活用して防災情報をお届けする現地実証を開始しました

2020年1月、九州電力㈱(*)は、自社電柱にスピーカーを取り付け、防災情報などをお届けする現地実証を、福岡県朝倉郡東峰村の協力のもと、同村内にて開始しました。

今回構築した新たなシステムでは、お住まいの近くの電柱を活用し、場所に応じた情報を選んで放送することにより、住民の皆さまが必要とする情報を、クリアな音声でお届けすることができます。

広域をカバーする現在の防災無線では、放送が反響したり遠くて聞き取りにくいなど、避難情報が住民に伝わらないという課題の解決と併せ、地域のニーズを踏まえ事業化を目指しています。

(*)現在は九州電力送配電㈱にて対応



現地実証用システムのイメージ